

## 日本産業広告賞受賞

日刊工業新聞社主催の日本産業広告賞において、当社の広告が本年の新聞部門の第4部で第3席を受賞しました。宇宙の成り立ちの鍵を握ると言われる「ダークマター」の直接検出を目指すXMASS（エックスマス）実験に当社の超純水技術が貢献しています。

**レンズから、ミズへ。**  
ガリレオの望遠鏡から400年。  
宇宙最大の謎を解くのは水のカかもしれません。

**1609** ガリレオの天体望遠鏡  
人類初の天体望遠鏡の発明。天体の拡大・天体の観察の革命。

**1897** サーベス天文台  
宇宙最大の天体望遠鏡を持つ天文台。天体望遠鏡の天文学の中心。

**1980** VLBA Very Large Array  
地球20km、27機のアンテナが構成し、天体望遠鏡では最大の口径を持つ電波望遠鏡。

**1990** ハッブル宇宙望遠鏡  
宇宙最大の口径の天体望遠鏡。宇宙最大の口径の天体望遠鏡。

**2011 XMASS**  
XMASS (X-ray Monitor for Weakly Interacting Massive Particles)  
地下1,000mに設置、宇宙から飛来するダークマターの直接検出を目指す。  
ダークマター  
宇宙の約27%を占めるとされる謎の物質。目に見えず、重力のみで物質をすり抜けるという性質を持っている。

Ecologically Clean  
**オルガノ**

オルガノは宇宙の謎を解明するXMASS実験に超純水を提供しています。**オルガノの超純水**

オルガノ株式会社 〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 電話 03-5635-5110 FAX 03-3699-7030 www.organo.co.jp

## 第68期中間報告書

平成24年4月1日～平成24年9月30日

証券コード：6368



# Ecologically Clean

## IRカレンダー (平成24年10月1日～平成25年9月30日) ※平成24年12月7日現在の予定です。

- 第2四半期決算説明会
- 中間報告書発送
- 決算説明会
- 招集通知発送
- 決議通知・報告書発送



**オルガノ株式会社**

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8 経営企画部 TEL.03-5635-5111  
ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



**オルガノ株式会社**

企業コンセプト

# Ecologically Clean

企業理念

オルガノグループは  
かけがえのない地球の未来を見つめ  
“心”と“技”で水の価値を創造する

経営理念

- お客様にとって、最適な商品・技術・サービスを創造し、提供し続ける企業を目指す
- 株主様にとって、常に成長し、安定収益をあげる魅力的な企業を目指す
- 社員にとって、働き甲斐があり、誇りの持てる企業を目指す

## 株主の皆様へ



代表取締役社長

内田 隆行

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。  
ここに当社の第68期事業年度（平成24年度）中間期のご報告をさせていただきます。

### 1. 当第2四半期連結累計期間の概況

当期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要を背景に緩やかな景気回復に向かいつつも、円高の継続、欧州の債務危機や中国の経済成長減速など世界景気の下振れ懸念などを背景に先行き不透明なまま推移しました。

当社グループを取り巻く市場環境は、国内では企業の生産活動の回復に伴い、設備投資も緩やかな持ち直しの動きがみられますが、生産拠点の統廃合や海外移転の動きは継続しており、また、主たる海外市場である中国などのアジア地域では、投資の縮小や先進国向け輸出環境の悪化といった景気減速がみえはじめるなど依然として厳しい状況にあります。

このような状況のもと、当社グループは引き続き産業全般・海外分野

での営業体制を強化し、受注及び売上の拡大に取り組むとともに、コストダウンなどの収益の改善にも取り組んでまいりました。

しかしながら、東日本大震災による火力発電所復旧・設備増強などにより水処理エンジニアリング事業が大きく伸びた前年同期に比較し、当期間の受注高は、震災復旧関連需要の一巡、新規設備投資の低迷などから、318億円（前年同期比15.5%減）に留まりました。

売上高につきましては、機能商品事業において新商品の開発やリニューアルによる拡販効果で前年同期並みの売上を確保した一方で、電子産業分野での国内における設備投資の抑制、海外案件の着工延期などの影響もあり、295億円（前年同期比2.2%減）となりました。

利益面につきましても、売上の減少に加え、受注競争の激化に伴い採算性が低下したことなどから、営業利益10億円（前年同期比51.2%減）、経常利益10億円（同47.4%減）、四半期純利益6億円（同40.4%減）となりました。

当期の中間配当金につきましては、当期間の実績及び通期の見通しを勘案し、前期末配当金と同じく1株当たり6円とさせていただきます。

### 2. 通期の見通し

当社グループは、総力を挙げて受注及び売上の拡大やコストダウンなどによる収益の改善に努めてまいります。設備投資動向や顧客工場の操業度については依然楽観できない状況です。

したがいまして、通期の業績見通しにつきましては期初予想を修正し、受注高700億円（前期比2.9%増）、売上高700億円（同2.2%増）、営業利益40億円（同17.5%減）、経常利益39億円（同18.4%減）、当期純利益22億円（同18.0%減）を見込んでおります。

### 3. 今後の経営方針

市場環境の変化は、現在取り組んでいる中期経営計画策定時の想定をはるかに上回る速いスピードで進んでおり、電子産業分野に限らず多くの産業分野で国内企業の生産拠点の統廃合や海外移転が進んでいます。こうした国内でのプラント新設案件の減少という市場環境の変化に対して、いかに事業ポートフォリオを変え、事業の安定化を図り、新たな成長エンジンを見出すことができるかが、事業運営上の大きな課題となっております。

当社グループを取り巻く事業環境が厳しさを増す中で、  
・超純水・純水と並んで、排水・回収事業分野への展開の加速  
・リニューアル・ラインアップ整備のなされた中小型機能商品の迅速な営業展開、ならびにサービス事業の拡大  
・電力・電子産業分野を始めとする海外受注・売上高の増大  
・グローバルベースで戦えるコスト競争力の強化  
という方針を着実に進めております。この事業構造変革に向けての着実な取り組みが当社グループを成長路線へと導き、将来目標の売上高1,000億円、営業利益100億円に繋がるものと確信しております。

### 4. 最後に

当社グループでは、開発・生産・販売・メンテナンスの各部門が一体となって、受注・売上高の増大、コストダウン、収益の改善に努めております。

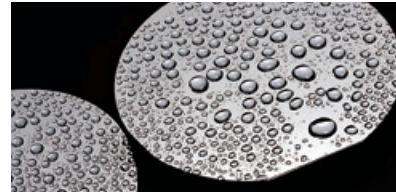
株主の皆様におかれましては、今後ともご支援、ご指導の程、宜しく願い申し上げます。

平成24年12月

## ▶ プラント事業

### 電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄工程に欠かせない超純水の製造装置をはじめ、各種の排水処理設備、外部へ排水を出さずに循環利用するクローズドシステム、排水からの有価物回収システムなど、電子産業分野においてオルガノは世界トップレベルの技術を誇っています。



### 一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプ、繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業に対して、プロセス用水の処理システム、各種の排水処理設備、水の回収・再利用システムなどを提供し、高い評価をいただいています。



### 電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力発電所向け水処理プラント。オルガノはこの分野で圧倒的なシェアを誇っています。なかでも発電所において、主要水処理設備である復水器過・脱塩装置は、オルガノの独壇場として長年トップシェアを堅持しています。さらに、国内のみならず東南アジアや米国の発電所向けにも水処理装置を納入するなど、その技術力の高さを証明しています。



### 上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。上水道では沈でんろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理設備など、下水道では生物処理設備、高速繊維ろ過装置など、オルガノの技術が活躍しています。



### 医薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でパイロジェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供しています。



## ▶ ソリューション事業

### メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

### 提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良提案を行います。また、薬品使用量や廃棄物の削減など、環境負荷低減に貢献する提案を行います。

### 水処理アウトソーシング受託事業

#### ■ 包括メンテナンス

お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。

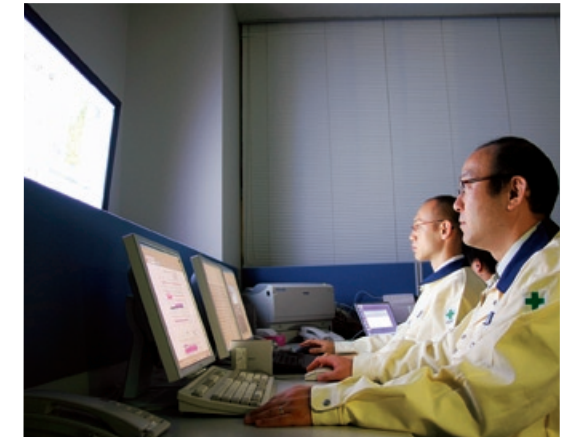


#### ■ 処理水供給

お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

#### ■ 遠隔監視

オルガノ本社内にある監視センターで、お客様の水処理装置の運転状況を遠隔監視しており、異常があった際の早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データの変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブル防止に貢献します。



#### ■ 運転管理

ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の負担を軽減し、安定かつ効率的な運転を実現します。

▶ 機能商品事業

標準製品

純水装置はもちろん、水に新たな機能を付加する機能水製造装置など、短納期・低コストで豊富な商品ラインアップを有しており、電子産業から食品工場、病院、研究所、レジャー施設まで、ニーズに合わせて広く用いられています。



キャビネットタイプ純水装置 PROシリーズ

電気脱塩式純水装置 SD-HFシリーズ

水処理薬品

冷却効果を高めて省エネにつなげる冷却水処理薬品、ボイラを効率的に運転するための処理剤、廃棄物の削減につながる排水処理剤など、水処理用の多様な薬品をラインアップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。



食品加工材

食品加工材の分野では、主にハムや即席めんの改良に用いられるリン酸塩が国内トップシェアの実績。その他、第三のビールに使用されるエンドウたん白をはじめ、様々な品質改良剤、食品素材を開発・製造・販売しております。オルガノの技術は豊かな食文化の創造にも貢献しています。



イオン交換樹脂

様々な用途で用いられる「イオン交換樹脂」

イオン交換樹脂は、イオン類を吸着・除去するという特性を持っており、多くは純水やボイラー用水の製造や、排水中の有害物質の除去などで利用されています。一方で、その特性は水処理以外の分野でも発揮されます。当社のラインアップの一つであるアンバーリストシリーズは、化学反応を促進させる触媒として、様々な製造プロセスで使用されています。例えば微量の不純物も許されない電子材料分野の製造プロセスにおいては、従来イオン交換樹脂は使用されていませんでした。当社はこのような用途にも対応した高純度のイオン交換樹脂の製造技術の実用化によって、今までの市場にない製品を提供することでお客様のニーズに応えています。今後さらなる技術開発と新分野・新用途の開拓を積極的に進めます。



有機排水処理設備「オーファスOFAS-S1シリーズ」を発売

MBR法（膜分離活性汚泥法）を用いて有機排水を処理する「オーファスOFAS-S1シリーズ」を開発、本年6月に発売しました。MBR法は微生物の働きで排水中の有機物を分解し、精密な膜でろ過することにより清澄な処理水を得る処理技術です。従来の標準活性汚泥法と比べ処理効率が高いことに加え、微生物を分離する沈殿槽が不要であることから、飛躍的な省スペース化が図れます。また、精密な膜ろ過を行うため、汚泥の流出（キャリーオーバー）が防止でき、運転管理が容易になります。さらに、清澄な処理水を得ることができることから、水回収・再利用にも適しています。「オーファスOFAS-S1シリーズ」は、このMBR法による排水処理技術をコンパクトなユニット内にまとめることで、より一層の省スペース化と短納期を実現した装置です。食品・化学分野を始め、幅広い業種をターゲットとして拡販を進めています。



オーファスOFAS-S1シリーズ

一般消費者向けビジネスの開拓

事業範囲の拡大を図るため、一般消費者向け事業への取り組みを進めています。その一環として、「純水」の飲用ボルドウォーター「purifié（ピュリフィ）」の販売を開始しました。「purifié」は水に溶けているミネラル等をほぼ100%除去した超軟水で、乳児向けの粉ミルクの調乳、お酒の割り水、料理や炊飯などの用途に適しています。現在は、インターネットや雑誌での通信販売などでご購入いただけます。詳しくは当社ホームページのpurifié情報サイトをご覧ください（アドレス <http://produce.organo.co.jp/index.html>）。また、かねてよりマーケティングを続けていた、住宅用空気清浄機「エアワッシャー」を本年8月に発売しました。「エアワッシャー」は、空気を水に通して浄化する方式を採用しており、一般的なフィルター型の空気清浄機では除去できなかった悪臭成分などのガス状物質の除去も可能となりました。工務店や住宅メーカーなどを通じて、一般家庭などへの販売を進めています。



purifiéのおすすめ用途 (purifié情報サイトより)



エアワッシャー

連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期末 (平成24年9月30日現在)	前期末 (平成24年3月31日現在)	比較増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	54,593	59,888	△5,294
固定資産	24,560	24,821	△260
有形固定資産	21,460	21,589	△128
無形固定資産	343	380	△36
投資その他の資産	2,755	2,851	△96
<b>資産合計</b>	<b>79,154</b>	<b>84,709</b>	<b>△5,555</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	26,303	30,879	△4,575
固定負債	9,538	10,814	△1,276
<b>負債合計</b>	<b>35,842</b>	<b>41,694</b>	<b>△5,852</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	43,206	42,920	286
資本金	8,225	8,225	-
資本剰余金	7,508	7,508	-
利益剰余金	27,796	27,508	288
自己株式	△323	△321	△1
その他の包括利益累計額	△267	△250	△17
少数株主持分	372	345	27
<b>純資産合計</b>	<b>43,312</b>	<b>43,015</b>	<b>296</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>79,154</b>	<b>84,709</b>	<b>△5,555</b>

◆**流動資産**  
 現預金及び売上債権の減少などにより5,294百万円減少しました。  
 ◆**流動負債**  
 仕入債務の減少などにより4,575百万円減少しました。  
 ◆**固定負債**  
 長期借入金の減少などにより1,276百万円減少しました。  
 ◆**純資産の部**  
 四半期純利益の計上に伴う利益剰余金の増加などにより296百万円増加しました。

連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)	比較増減
売上高	29,566	30,223	△657
売上原価	21,979	21,682	296
売上総利益	7,587	8,540	△953
販売費及び一般管理費	6,576	6,469	106
<b>営業利益</b>	<b>1,010</b>	<b>2,071</b>	<b>△1,060</b>
営業外収益	139	82	56
営業外費用	104	166	△62
<b>経常利益</b>	<b>1,045</b>	<b>1,986</b>	<b>△941</b>
特別利益	-	8	△8
特別損失	20	35	△15
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>1,024</b>	<b>1,959</b>	<b>△934</b>
法人税等	367	871	△504
少数株主損益調整前四半期純利益	657	1,088	△430
少数株主利益	23	24	△1
<b>四半期純利益</b>	<b>634</b>	<b>1,063</b>	<b>△429</b>

◆**売上高**  
 機能商品事業において新商品の開発やリニューアルによる拡販効果があった一方で、電子産業分野での国内における設備投資の抑制、海外案件の着工延期などの影響もあり、売上高は29,566百万円と前年同期に比べて若干減少しました。  
 ◆**営業利益・経常利益**  
 売上高の減少に加え、採算性の低下の影響により、営業利益1,010百万円、経常利益1,045百万円と前年同期に比べて減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,348	△4,353
投資活動によるキャッシュ・フロー	△625	524
財務活動によるキャッシュ・フロー	264	△1,035
現金及び現金同等物に係る換算差額	47	27
現金及び現金同等物の増減額	△2,662	△4,837
現金及び現金同等物の期首残高	10,273	13,376
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,610	8,538

◆**営業活動によるキャッシュ・フロー**  
 2,348百万円の資金流出となりました。主な資金の増加は税金等調整前四半期純利益及び売上債権の減少によるものであり、主な支出は仕入債務の減少によるものです。  
 ◆**投資活動によるキャッシュ・フロー**  
 625百万円の資金流出となりました。主な支出は有形固定資産の取得によるものです。  
 ◆**財務活動によるキャッシュ・フロー**  
 264百万円の資金流入となりました。主な資金の増加は短期借入金の増加によるものであり、一方、主な支出は長期借入金の返済及び配当金の支払によるものです。

当第2四半期末の現金及び現金同等物は前期末に比べて2,662百万円減少し、7,610百万円になりました。

セグメント別業績

（単位：百万円）

科目	当第2四半期(累計) (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前第2四半期(累計) (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
<b>■受注高</b>		
水処理エンジニアリング事業	22,022	27,672
機能商品事業	9,812	9,979
<b>■売上高</b>		
水処理エンジニアリング事業	20,253	20,723
機能商品事業	9,312	9,499
<b>■営業利益</b>		
水処理エンジニアリング事業	556	1,152
機能商品事業	454	918

【水処理エンジニアリング事業】

当事業におきましては、国内における震災の復旧対応があった前年同期に比べ、受注は減少しました。一般産業分野を中心に前期からの受注残が売上となった一方で、国内外における設備投資やメンテナンス、改造工事の延期などにより、電子産業分野の売上が減少しました。また、売上の減少に加え、採算性の低下により、受注高22,022百万円、売上高20,253百万円、営業利益556百万円となりました。

【機能商品事業】

当事業におきましては、顧客工場の操業度に低下がみられ、事業全般で受注及び売上が低調に推移し、採算性が低下した結果、受注高9,812百万円、売上高9,312百万円、営業利益454百万円となりました。

当期より、各セグメントの経営実態をより的確に把握できる体制が整ったため、全社共通営業費用のうち各セグメントへの関連が明確な費用については各セグメントに直接賦課する方法に変更しました。  
 なお、前年同期のセグメント情報は、変更後の配賦方法に基づき作成したものです。

注) 本報告書は決算短信などの数値、文章を基に作成しています。その後に公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては、当社ホームページの掲載資料などにてご確認ください。

会社概要

商号 オルガノ株式会社 (英文 ORGANO CORPORATION)  
 創業 昭和21年5月1日  
 資本金 8,225,499,312円  
 従業員数 連結1,796名 (単体698名)  
 事業内容 当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工材の販売を主な事業としております。

主要な事業所

本社 〒136-8631  
 東京都江東区新砂1丁目2番8号  
 開発センター 相模原  
 工場 つくば、いわき  
 事業所 長崎  
 支店 北海道、東北、中部、関西、中国、九州、台湾

主要なグループ会社

■ 連結対象子会社

(国内) オルガノ北海道(株) (海外) Organo(Asia)Sdn.Bhd.  
 オルガノ東北(株) オルガノ(蘇州)水処理有限公司  
 オルガノ東京(株) 奥璐佳瑞科技股份有限公司  
 オルガノ中部(株)  
 オルガノ関西(株)  
 オルガノ九州(株)  
 オルガノプラントサービス(株)  
 オルガノフードテック(株)  
 オルガノアクティ(株)

取締役・監査役・執行役員 (平成24年10月1日現在)

取締役社長 内田 裕 行  
 取締役兼専務執行役員 山根 修 二  
 取締役兼常務執行役員 奥園 修 一  
 取締役兼常務執行役員 浦井 紀 久  
 取締役兼常務執行役員 渡辺 大 輔  
 取締役兼常務執行役員 伊藤 智 章  
 取締役兼常務執行役員 豊田 正 彦  
 取締役兼執行役員 古内 正 春  
 取締役 山村 聖 和  
 常勤監査役 中村 俊 章  
 監査役 中根 俊 章  
 監査役 星 一 也  
 執行役員 砂岡 好 夫  
 執行役員 羽多野 敦  
 執行役員 長谷川 雅 順  
 執行役員 梅香 豊  
 執行役員 明賀 春 樹  
 執行役員 吉田 重 人  
 執行役員 安藤 正 士  
 執行役員 山口 良 一  
 執行役員 下畑 昌 樹

(注1) 内田裕行、山根修二は代表取締役であります。  
 (注2) 中根俊章及び星一也は社外監査役であります。  
 (注3) 中根俊章は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

■ その他グループ会社

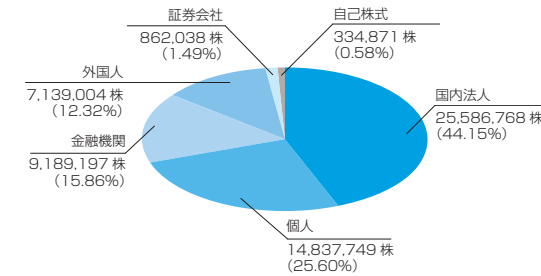
(国内) オルガノ山下薬品(株) (海外) Organo(Thailand)Co., Ltd.  
 オルガノ・ハイテック(有) Organo(Singapore)Pte Ltd  
 環境テクノ(株) Organo(Vietnam)Co., Ltd.  
 オルガノエコテクノ(株)  
 東北電機鉄工(株)

株式の状況

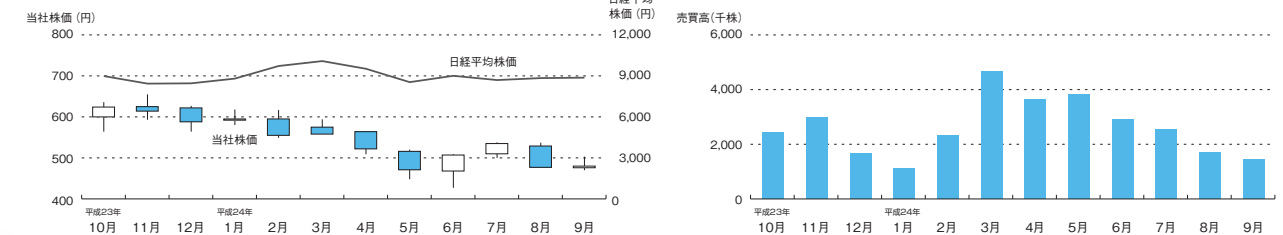
- 発行可能株式総数 ..... 126,960,000 株
- 発行済株式総数 ..... 57,949,627 株
- 株主総数 ..... 8,133 名
- 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東ソー株式会社	23,877	41.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,812	3.13
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,224	2.11
モルガンスタンレーアンドカンパニーエルエルシー	1,107	1.91
株式会社みずほ銀行	1,000	1.73
みずほ信託銀行株式会社	775	1.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	694	1.20
ケービーシーセキュリティーズ エヌバイ クライアーツ アカウント ノントリーティ	660	1.14
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) アカウント ユーエスエル ノントリーティ	524	0.90
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	437	0.75

● 所有者別株式分布状況



● 株価及び売買高の推移



株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会 6月  
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日  
 期末配当 3月31日  
 中間配当 9月30日  
 単元株式数 1,000株  
 公告掲載方法 電子公告  
 公告掲載アドレス <http://www.organo.co.jp/>  
 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。  
 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社  
 連絡先 〒168-0063  
 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話0120-782-031 (フリーダイヤル)  
 受付窓口 三井住友信託銀行株式会社 本店・全国各支店  
 ホームページアドレス <http://www.smbt.jp/personal/agency/index.html>  
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)

株式に関する諸手続のお申し出先について

- 住所変更、配当金受領方法の指定、単元未満株式の買取請求及び買増請求などの株式の諸手続につきましては、お取引のある証券会社にお申し出ください。
- 証券会社に口座がないため、特別口座が開設されました株主様の株式の諸手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。
- 未受領の配当金のお支払につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社の本店・全国各支店でお取り扱いいたします。